

科目名称	学科入門セミナー (E)		授業コード	10119982	
担当教員	萬田 隆	山之内 誠、長濱 伸貴、小浦 久子、畑 友洋、荻原 廣高、三上 晴久、川北 健雄、藤山 哲朗			
単位数	1	授業形態	実習	科目分類	
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	2023 年度 E 新入生（編入・転入生含む）
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>【授業の目的】 大学での学習態度を身に付けてもらうこと、何よりも同級生や教員とお互いに知り合い、コミュニケーションを深めることにある。環境や建築のデザイン分野では、様々な人々と関わり合いながら作品をつくる。そのため、この事業の共同作業を通じて人の輪を広げ、合わせて、学外の施設を訪れることで、実際の建物や環境を読み取るフィールドサーベイに関心を持つきっかけとする。</p> <p>【到達目標】 フィールドサーベイの基礎、グループワークによるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。</p>
授業計画の概要	グループ別および全員合同で教員が引率する神戸近郊の地区、建物などの見学会に参加。グループごとに見学内容を基にさらに調査を進めレポートを作成。全体講評会で成果をプレゼンテーションする。 詳細な日時、場所、課題内容は、オリエンテーションにて発表する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 見学先の選定。 ② 事前学習 ③ グループ別見学会実施 ④ グループディスカッション ⑤ 全員合同見学会実施 ⑥ レポート作成。プレゼンテーション準備 ⑦ 成果発表・講評会
実務経験のある教員	全教員が各自の専門分野で実務経験を有する対象の見学会を設定し、レポート作成を指導する。
授業時間外学習	各回のグループ実習に必要な、事前調査やまとめは各自で授業時間外に行うこと。
評価方法	見学会・グループ作業への取組成果と最終成果レポートとの評価による。
指導方法	各回対面実習時に指導を行う。
使用テキスト	適宜プリント配布。
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	グループ別見学先までの交通費は各自負担とする。
その他	見学先および日程はオリエンテーションで示す。ただしグループ別見学会については参加人数を制限する見学先もある。

科目名称	現代の建築	授業コード	20012083
担当教員	畑 友洋	荻原 廣高、藤山 哲朗	
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2023
科目分類		開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士		

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	現代建築の特色と成立した背景を学び、総合的に理解する。現代建築の流れを歴史的文脈においてとらえ、説明できるようになる。
授業計画の概要	現代建築の代表的な作品を個別に詳しく見ることにより、現代建築の見方や特性を理解する。次いで、20世紀以降の現代建築に直結する建築史を学び、その延長にある現代建築の動向を歴史的文脈においてとらえ説明できるようになる。
授業計画	<p>ビルディングタイプから見る現代建築</p> <p>1：住宅①、1960年代～80年代（藤山）</p> <p>2：住宅②、1990年代～2010年代（畑）</p> <p>3：交通施設（畑）</p> <p>4：美術館（藤山）</p> <p>5：リノベーション、保存再生①（畑）</p> <p>6：リノベーション、保存再生②（レポート出題）（畑）</p> <p>映像から学ぶ現代建築</p> <p>7：フォスター卿の建築術（ミニレポート提出）（藤山）</p> <p>考え方（イズム）から見る現代建築</p> <p>8：ラディカルアーキテクチャー（畑）</p> <p>9：コンテクスチャリズム～ポストモダン（藤山）</p> <p>10：ディコンストラクティビズム（藤山）</p> <p>11：アルゴリズムック、パラメトリシズム（レポート出題）（藤山）</p> <p>地球環境から見る現代建築</p> <p>12：気候変動と環境建築（荻原）</p> <p>13：国内の環境建築（荻原）</p> <p>14：海外の環境建築（レポート出題）（荻原）</p> <p>映像から学ぶ現代建築</p> <p>15：スケッチ・オブ・フランク・ゲーリー（ミニレポート提出）（藤山）</p>
実務経験のある教員	建築設計の実務経験のある教員が、実践的な経験を活かして事例を解説する。
授業時間外学習	講義で取り上げる作品・建築家はどれも重要なものですが、授業時間内では全容は解説しきれません。授業外学習で、改めて図面・写真・解説等の資料を収集読解し理解を深めること。
評価方法	3回のレポートと2回のミニレポート（授業時間内提出）の合計点で評価する。
指導方法	3回のレポート課題（ミニレポート除く）に評価コメントを記載して返却。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	<p>『現代建築史』（ケネス・フランプトン著、中村敏男訳、青土社）</p> <p>『現代建築入門』（ケネス・フランプトン著、中村敏男訳、青土社）</p> <p>『現代建築の見方』（鈴木博之著、王国社）</p>
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	都市の歴史と住まいのかたち		授業コード	20012092	
担当教員	小浦 久子	山之内 誠			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル及び Stream
履修制限等	教室の定員までとし、E 生優先
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 都市の歴史と住宅に関する基礎的知識を習得する。</p> <p><到達目標> 都市を構成する建築の基本である住宅についての知識を学ぶことにより、都市と建築の関係を理解できるようになる。</p>
授業計画の概要	人は住む「場所」をどのように選び、その環境・自然や歴史文化とどのように呼応しながら「住まい」をつくり、「都市」「集落」を形成してきたのか。日本や世界の「都市」や「集落」の歴史をその環境や地域文化などの背景とともに学び、その空間構成の基礎となる「住まい」の多様性と地域性を生活文化や地域環境から解説する。
授業計画	1：都市の始まり（小浦、山之内） 2：古代都市（山之内） 3：中世都市（山之内） 4：近世都市（山之内） 5：都市の近代化（小浦） 6：現在都市の課題（小浦） 7：都市の未来（小浦） 8：住まいがつくる地域のかたち1（山之内） 9：住まいがつくる地域のかたち2（小浦） 10：日本の住まいの地域性（山之内） 11：日本の住まいの歴史（山之内） 12：都市をつくる住まい（小浦） 13：住まいのつくる景観1（小浦） 14：住まいのつくる景観2（小浦） 15：まとめ（小浦、山之内）
実務経験のある教員	都市プランニングの実務経験のある教員が、実践的事例と合わせて理論を解説する。
授業時間外学習	授業時間内で紹介する都市や住まいに関する書籍をできるだけ読むこと。また、身近なまちに関心を持ち、気になる場所や気に入った場所を写真にとり、空間事例をストックすることを推奨する。
評価方法	学期末レポート課題2題の総合点で評価する。なお、学期末レポート課題以外に授業内で課す小レポート（計4回）の提出が2回未満の場合は、単位取得を認めず欠格とする。
指導方法	最終回の授業において、提出されたレポート課題についての総評を行う。
使用テキスト	適宜、資料を配布する。
参考テキスト・URL	『都市の世界史1～4』L.ペネヴォロ相模書房 1983 『日本都市史入門Ⅰ～Ⅲ』高橋康夫・吉田伸之編東京大学出版会 1989 『日本人の住まい』宮本常一農文協 2007
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	ランドスケープデザインの歴史			授業コード	20012213
担当教員	長濱 伸貴				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> ランドスケープデザインの近代史について、映像を中心に学習する。</p> <p><到達目標> それぞれの年代におけるランドスケープ作品の空気感を直感的に習得する。</p>
授業計画の概要	公園・広場および庭園の空間を対象としたランドスケープデザインの歴史的な意味や社会的な役割について、建築やアートなどの時代背景と共に、その時系列的な探究によってアプローチする。このことによって、ランドスケープデザインの基礎知識の習得および建築や都市計画、インテリア、アートなどの他領域との関係性や協働性を考えるきっかけづくりとなることを目指す。
授業計画	1：ランドスケープデザインの近代史（概論） 2：庭園からランドスケープデザインへ（1850年以前） 3：近代ランドスケープデザインの幕開け（1850～1900年） 4：都市とランドスケープの結合（1900年代） 5：日本のランドスケープデザインの幕開け（1910年代） 6：建築モダニズムとランドスケープ（1920年代） 7：ランドスケープのモダニズム運動の胎動（1930年代） 8：ランドスケープデザインの断絶期（1940年代） 9：ランドスケープのモダニズムの展開（1950年代） 10：ランドスケープのモダニズムの実践（1960年代） 11：エコロジカル・ランドスケープ（1970年代） 12：ランドスケープデザインの復興（1980年代） 13：アートとしてのランドスケープ（1990年代） 14：ランドスケープデザインの現在（2000年代） 15：まとめ（ランドスケープ近代史の年表作成）
実務経験のある教員	ランドスケープデザインは計画・設計の実務能力が必要であることから、実践的な内容が求められる。ランドスケープアーキテクトとしての実務経験をもとに、具体的かつ実践的な基礎知識と手法等について講義する。
授業時間外学習	都市、建築、インテリア空間のデザインと合わせて学習することを推奨する。また、「環境デザイン実習Ⅰ」課題B（ランドスケープ設計の方法を学ぶ）の補完講義である。
評価方法	毎回の講義中に提出するレポートを採点し、総合的に評価する。
指導方法	授業時およびKDUポータル（Q&A機能）による質疑応答を行う。
使用テキスト	『テキストランドスケープデザインの歴史』学芸出版社
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	単位互換講座提供科目（UNITY、ひょうごコンソ）

科目名称	建築構造入門		授業コード	10011063	
担当教員	萬田 隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択(2018年度生以降) / 必修(2017年度生以前)
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> 建築の設計を行うにあたり不可欠な構造についての知識を身につけ、構造力学の基礎を学び計算方法を習得し、建物に流れる力について理解する。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物に働く荷重について説明することができる。 ・ 支点反力の算出ができる。 ・ 断面力の概念について説明することができる。
授業計画の概要	建築構築デザインの基礎となる構造力学を学ぶ。静定構造の力学を学ぶことにより、構造の基本的考え方や計算方法を習得する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：概論（建築構造設計の基本） 2：構造物に働く力（荷重、質量と重さ、速度、重力加速度） 3：力学の基礎 4：力の基本 5：力の合成と分解・力の釣合い1（力・モーメントの合成・分解） 6：力の合成と分解・力の釣合い2（力の釣り合い） 7：支点と節点、荷重、反力1（建物のモデル化手法） 8：支点と節点、荷重、反力2（支点反力の算出方法） 9：支点と節点、荷重、反力3（点反力） 10：構造物の安定・不安定、静定・不静定 11：部材に生じる力1（軸力・せん断力・曲げモーメント） 12：部材に生じる力2（断面力） 13：静定梁1（単純梁、片持梁） 14：静定梁2（単純梁・片持梁の断面力） 15：静定梁3（静定梁に関する問題演習）
実務経験のある教員	現役で建築構造設計を行っている教員が、実際の建築の設計例を示しながら講義を行うことで、講義内容の理解度を向上させる。
授業時間外学習	数学 I 程度の知識は必要となるので高校で使用した数学の教科書を復習しておくこと
評価方法	学期末に行う定期試験で評価する。
指導方法	KDU ポータル・クラスプロファイルにより、授業の質問を受けつけ、返答を行う。
使用テキスト	やさしい建築構造力学演習問題集 浅野清昭/学芸出版社
参考テキスト・URL	
各自準備物	関数電卓（sin、cos が計算できるもの）
実習費	
その他	環境・建築デザインにおける空間創造の基本であるのでしっかり履修すること。

科目名称	CAD 応用演習		授業コード	20019100	
担当教員	前田 信彦	前田 裕希			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	Microsoft Teams 等
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的>プレゼンテーションボードの作成を繰り返し行うことで、検討及び表現両方の実践に必要な技術を習得する。</p> <p><到達目標>自分がデザインする建築物について表現の幅を広げるだけでなく、検討する際にもデジタルツールを有効的に用いることができるようになる。</p>
授業計画の概要	<p>3つの課題を通してCADだけでなくモデリング・レンダリング・レイアウトなど複数のツールを積極的に横断しながら用いることで多様な技術を習得するとともにプレゼンテーションボードとして表現する。また、既存の建築物を扱うだけでなく自分で設計した作品や新たにデザインを伴う課題に取り組むことで表現と検討を行き来しながら実践的なツールの用い方を習得する。</p>
授業計画	<p>1: 建築作品 A トレース(1) (課題①) CAD 基礎演習の復習を兼ねて AutoCAD の概要の解説を行う。AutoCAD を用いて建築作品 A の図面をトレースする</p> <p>2: 建築作品 A トレース(2) (課題①) 引き続き AutoCAD を用いて図面をトレースする</p> <p>3: 建築作品 A モデリング(1) (課題①) 前回までに作成した図面データをもとに Sketchup を用いてモデリングする</p> <p>4: 建築作品 A モデリング(2) (課題①) 引き続きモデリングを行いながら基盤地図の読み込みなど、他ツールとの連携方法についても学習する</p> <p>5: 建築作品 A レンダリング(課題①) レンダラを用いて画像をレンダリングし、マテリアル・カメラアングル・ライティングについて学習する</p> <p>6: 建築作品 A レイアウト + 提出(課題①) Photoshop や Illustrator を活用し、プレゼンテーション作成に必要な技術について学習する</p> <p>7: 自作品 トレース (1) (課題②) 自作品のトレース・モデリングを通じて AutoCAD の実践的な使い方について学習する</p> <p>8: 自作品 トレース (2) (課題②) 引き続き AutoCAD を用いてトレースを行う</p> <p>9: 自作品 モデリング(課題②) 前回までに作成した図面データをもとに Sketchup を用いてモデリングし、より実践的な使用方法について学習する</p> <p>10: 自作品 モデリング・レンダリング(課題②) 引き続きモデリングを行い、レンダラを用いて設計意図に合わせたレンダリングを行う</p> <p>11: 自作品 レイアウト + 提出(課題②) レンダリングした画像をブラッシュアップし、図面・設計意図とともに必要な素材を設計意図がより伝わるようにレイアウトする</p> <p>12: 独自課題 (1) (課題③) 身の回りの品を建築にかえてみるなど、創作を含んだ独自課題を通じて、さらなる技術の習得だけでなく建築のスタディについて各ツールを使用する方法を学ぶ</p> <p>13: 独自課題(2) (課題③) 成果物を意識しながら引き続きブラッシュアップを行う</p> <p>14: 独自課題(3) (課題③) 今回設計した建築物がどのような敷地に置かれているのか想像し、コラージュする。</p> <p>15: 独自課題 レイアウト + 提出 + 発表(課題③) ブラッシュアップした成果物をプレゼンテーションボードとして提出し、簡易な発表+講評会を行う</p> <p>課題は合計3つ出題し、それぞれ建築作品 A は既存の有名建築物を、自作品は過去に設計した自分の作品を題材にする。独自課題では本授業内にて新たにデザインをして簡易に建築物を設計する。</p>
実務経験のある教員	建築設計事務所勤務時及び独立後の設計実務経験を活かし、共感を得るために必要な表現技術について、実践を交えた講義・演習を行い、適宜教室巡回の上個別指導を行う。
授業時間外学習	本授業で身につけた技術を用いて設計課題を作り込む等、実際に手を動かすことで表現の幅を広げ、習得した技術を定着させること。
評価方法	複数の課題の合計点で評価する。積極的に様々な技法を取り入れた作品については高評価とし、課題を提出しない場合は E 評価とする。

指導方法	提出された課題の中で優秀なものについては講評を行い、良い点を皆で共用できるようにする。共通してつまずきやすいポイントが見受けられる場合などは別途解説を行うが、授業時間外にも質問を受け付け、適宜個別に説明を行う。
使用テキスト	配布資料
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必須ではないが「CAD 基礎演習」が履修済みであることが望ましい。 ・ 上記授業内容の順序等は、クラスの進度にあわせて変更することがある。 ・ 定員 60 名

科目名称	建築空間のデザイン			授業コード	10012190
担当教員	畑 友洋				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	建築空間を成立させているデザイン原理の基礎を理解する。また、その方法論を習得し、建築設計に応用できるようになる。
授業計画の概要	現代における代表的なビルディングタイプにおける建築計画の背景、類型、及びその変遷をたどりながら、建築空間を成立させているデザイン原理の基礎的理解とその方法論を習得し、建築設計に応用できるようになる。
授業計画	<p>1：住宅における建築空間のデザイン1（世界の住宅） 2：住宅における建築空間のデザイン2（日本の住宅） 3：集合住宅における建築空間のデザイン1（世界の事例） 4：集合住宅における建築空間のデザイン2（日本の事例） 5：図書館における建築空間のデザイン1（世界の事例） 6：図書館における建築空間のデザイン2（日本の事例） 7：美術館における建築空間のデザイン1（世界の事例） 8：美術館における建築空間のデザイン2（日本の事例）（レポート提出） 9：保育園、幼稚園、こども園における建築空間のデザイン 10：小学校、中学校、高等学校における建築空間のデザイン 11：コミュニティーセンターにおける建築空間のデザイン 12：駅舎における建築空間のデザイン 13：ホール、劇場における建築空間のデザイン 14：商業施設における建築空間のデザイン 15：複合施設における建築空間のデザイン（レポート提出） ※ただし、各回の対象は状況に応じて変更することがある。</p>
実務経験のある教員	建築設計における実務経験のある教員が、実践的な建築設計を前提とした建築空間のデザインを取り扱う。
授業時間外学習	授業中に指示する書籍、雑誌、ウェブサイトなどを読み、授業内容に関する知識を深めること。
評価方法	2回のレポートによる。評価の割合はそれぞれ2分の1。※全講義回数の半分以上の出席が認められない場合は、単位取得はできない。
指導方法	授業終了後、全体的な講評などをメールで配信する。
使用テキスト	プリントを適宜配布し、特定のテキストは使用しない。
参考テキスト・URL	『環境としての建築：建築デザインと環境技術』（レイナー パンナム著、鹿島出版会） 『GA Contemporary Architecture』（二川幸夫著、エーディーエーエディタトーキョー） 『建築計画額への試み』（吉武泰水著、鹿島出版会） 『建築計画』（鈴木成文著、実教出版）
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	ランドスケープ空間のデザイン			授業コード	10012490
担当教員	長濱 伸貴				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	建築士、教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> アーバン・ランドスケープ空間を構成する要素や特性についての理解を図る。 <到達目標> デザイン実習における基礎知識の習得と実践能力を身につける。</p>
授業計画の概要	道路や広場、空地などの都市空間および公園やオフィス、住宅などのランドスケープ空間を対象として、それらの空間を構成する要素や特性について、部位や項目別に解説を行う。デザイン実習における総合化（デザインの実践）を前提としたアーバン・ランドスケープ空間のデザインの基礎知識を授業する。
授業計画	01：ランドスケープ空間のデザイン概論（長濱） 02：芸術のランドスケープ（朴） 03：生態のランドスケープ I（朴） 04：生態のランドスケープ II（朴） 05：防災のランドスケープ（朴） 06：再生のランドスケープ I（朴） 07：再生のランドスケープ II（朴） 08：社会のランドスケープ（朴） 09：樹木のランドスケープ（長濱） 10：舗装のランドスケープ（長濱） 11：地形のランドスケープ（長濱） 12：水景のランドスケープ（長濱） 13：石景のランドスケープ（長濱） 14：照明のランドスケープ（長濱） 15：風熱のランドスケープ（長濱）
実務経験のある教員	アーバンデザイン、ランドスケープデザインの実務経験のある教員による実践的なランドスケープデザイン基礎の解説を行う。
授業時間外学習	都市、建築、インテリア空間のデザインと合わせて学習することを推奨する。また、「環境デザイン実習 I」課題 B（ランドスケープ設計の方法を学ぶ）の補完講義である。
評価方法	毎回の講義中に提出するレポートの合計点で評価する。
指導方法	授業時および KDU ポータル（Q&A 機能）による質疑応答を行う。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	Web サイト：LANDEZINE/LandscapeArchitectureWorks → { http://www.landezine.com/ }
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	日本建築の歴史		授業コード	10012062	
担当教員	山之内 誠				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル及び Stream
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 環境をデザインするときに、地域の歴史文化的アイデンティティを適切に継承する力を身につけるために、本授業では、日本の伝統的な建築の基礎的な特徴を知り、それらの成り立ち及び変遷について理解する。</p> <p><到達目標> 日本の伝統的な建築の特徴が理解できる。 身の回りの建築の歴史的特徴に対する観察力が身につく。</p>
授業計画の概要	この授業では、古代から近代にわたる日本の歴史的な建築（寺社建築、住宅、城郭、近代建築等）を中心に、インテリアから都市計画まで広範な領域を対象として、基礎的な特徴や、成り立ち及び変遷について、解説する。
授業計画	1：日本建築の基本構成とその名称 2：飛鳥・奈良時代の建築 3：古代の都城計画と宮殿建築 4：建築構造・意匠の日本的発展過程 5：神社の成立とその形式 6：密教建築と浄土教建築 7：大仏様と禅宗様一新様式の輸入と展開 8：寝殿造の成立—上層住宅の変遷 1 9：寝殿造から書院造へ—上層住宅の変遷 2 10：近世城郭と武家住宅 11：近世寺社建築の展開 12：草庵風建築の誕生と展開 13：洋風建築の出現と日本人建築家の誕生—西洋建築文化の移入と近代日本の建築界 1 14：様式への習熟と近代建築運動—西洋建築文化の移入と近代日本の建築界 2 15：まとめ・理解度確認テスト
実務経験のある教員	文化財修理工事現場における修理技術者および地方文化財行政における建築の専門委員としての実務経験を生かし、日本の伝統的な建造物の特徴と見方を解説する。
授業時間外学習	前回までの授業内容を理解していることを前提として授業を進めるため、毎回の授業中に配布する資料を良く読み返して復習すること。また、配布資料中に示した『日本建築史図集』の該当箇所をよく読んで自習しておくこと。
評価方法	15回目の授業内で課す理解度確認テストにより評価する。
指導方法	授業終了後、理解度確認テストの全体的な講評等を、履修者にメール配信する。
使用テキスト	毎回の授業で配布するオリジナルのプリントを用いる。 『日本建築史図集』彰国社（配布プリントを補完するものとして使用）
参考テキスト・URL	『日本建築史』（建築学の基礎 6）共立出版 『カラー版建築と都市の歴史』井上書院 『コンパクト版建築史【日本・西洋】』彰国社 『カラー版図説建築の歴史』学芸出版社
各自準備物	
実習費	
その他	単位互換講座提供科目（UNITY、ひょうごコンソ）

科目名称	西洋建築の歴史		授業コード	20012071	
担当教員	三上 晴久				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面で行いますが、社会状況に応じてオンデマンド型の遠隔を導入することがあります。詳細は、授業開始までにポータルをとおして、掲示とメール連絡します。
使用するアプリ等	KDU ポータルのクラスプロフィール内に動画の URL を掲示登録するので、それを視聴すること。あわせて、授業資料を、ポータルサイトに事前にアップする。
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 一般的な歴史を西洋史を理解しながら、古代から近代に至る西洋（ヨーロッパ）建築の歴史を概観して理解する。</p> <p><到達目標> 西洋建築における「時代の動きと建築デザインの関係性」を理解できるようになる。 歴史的な視点から、現代建築のデザインを考えることができるようになる。 自らの設計において、過去の事例を参照しながら設計することができるようになる。</p>
授業計画の概要	毎回の配布資料と写真等をもちいて、古代～中世～近世～近代へと動いてきた西洋建築の歴史を検証する。過去の建築に対する造詣の深さは、環境デザイン実習において課される設計課題に取り組むときのてがかりとなる。
授業計画	1：西洋史の時代区分と西洋建築史 2：先史時代から古代へ、古代オリエント文明 3：エーゲ文明 4：古代ギリシア文明 5：古代ローマ文明 6：古代から中世へ、バシリカと初期キリスト教建築 7：ビザンチン、イスラム 8：ロマネスク、ゴシック 9：ルネサンス 10：マニエリスム 11：バロック、ロココ 12：近世から近代へ、19世紀の建築様式、万国博覧会 13：アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーボー、ロマンティック・ナショナリズム 14：近代建築の確立と広がり 15：近代建築批判と近代からの離脱ーポスト・モダニズム、脱構築主義ー
実務経験のある教員	担当教員は建築設計事務所での実務経験を十分に有しており、設計者の視点から、西洋建築の歴史の重要性を伝えることができる。
授業時間外学習	高校の世界史の教科書などを読みながら、基礎知識を補いながら受講するとよい。少しでも興味をもつことができた授業内容については、図書館などで知識を深めてほしい。
評価方法	学期末レポートと授業ごとの10分間レポートの双方を総合的に評価する。
指導方法	毎回の授業の冒頭で、前回レポートの中における質問等について、まとめて回答する。
使用テキスト	オリジナルテキスト
参考テキスト・URL	『図説年表西洋建築の様式』鈴木博之編彰国社 『ビジュアル版西洋建築史』長尾重武/星和彦編著丸善株式会社 『西洋建築史概説』森田恵一著彰国社 『西洋建築史図集』日本建築学会編彰国社 『近代建築史図集』日本建築学会編彰国社
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	力の流れと安全			授業コード	20012130
担当教員	萬田 隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> 「建築構造入門」に引き続き、構造力学の基礎を学び計算方法を習得し、建築構造設計に関する知識を深める。</p> <p><到達目標> ・ 静定構造物にはたらく断面力の算出ができる。 ・ 静定トラスにはたらく軸力の算出ができる。 ・ 断面2次モーメント等の断面パラメータおよび応力度の算出ができる。 ・ 不静定構造物についての基本的な考え方を説明できる。</p>
授業計画の概要	「建築構造入門」に続き、建築構造力学の基礎を学ぶ。静定構造物に関しては、断面力や応力度の算出方法を習得し、不静定構造物についても基礎的な計算方法についての考え方を学習する。
授業計画	1：概論（構造物に生じる応力度と変形） 2：静定構造物に生じる力1（単純梁、片持梁の解法） 3：静定構造物に生じる力2（静定ラーメンの解法） 4：静定構造物に生じる力3（静定構造物に関する問題演習） 5：静定トラスに生じる力1（図式解法） 6：静定トラスに生じる力2（節点法・切断法） 7：静定トラスに生じる力3（静定トラスに関する問題演習） 8：断面の応力度と歪度（主応力度、材料の許容応力度） 9：断面の性質（断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数） 10：曲げ部材、引張部材（応力度、縁応力度、せん断応力度） 11：圧縮部材（断面二次半径、オイラー座屈、偏心荷重） 12：静定梁の変形1（静定梁の変形量の公式） 13：静定梁の変形2（モールの定理） 14：不静定構造物の解法1（不静定構造物についての説明） 15：不静定構造物の解法2（たわみ角法）
実務経験のある教員	現役で建築構造設計を行っている教員が、実際の建築の設計例を示しながら講義を行うことで、講義内容の理解度を向上させる。
授業時間外学習	「建築構造入門」で学んだ内容を前提に講義をすすめる。
評価方法	学期末に行う定期試験で評価する。
指導方法	KDU ポータル・クラスプロファイルにより、授業の質問を受けつけ、返答を行う。
使用テキスト	やさしい建築構造力学演習問題集 浅野清昭/学芸出版社
参考テキスト・URL	
各自準備物	関数電卓（sin、cos が計算できるもの）
実習費	
その他	

科目名称	建築と熱・光・空気デザインのデザイン			授業コード	20012220
担当教員	荻原 廣高				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、教職、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	熱、光、空気の物理的性状とそれを利用したパッシブデザイン手法について理解する。実例を通じその計画手法を学び、建築設計における環境計画に生かすことができるようになる。
授業計画の概要	建築とその周辺環境を形成する環境要素のうち主に熱、光、空気の物理的性状について学ぶ。そして自然・人間・建築の良好な関係をつくり、高い快適性や健康性を獲得しながら省エネルギーに寄与するパッシブデザインについて、実際の設計事例を交え、建築設計に生かす方法を考える。
授業計画	1：気候・風土と建築環境のデザイン 2：建築環境と地球環境保護 3：光のデザイン - 光の特性 4：光のデザイン - 太陽の動きと昼光光源 5：光のデザイン - 日射の制御 6：熱のデザイン - 熱の特性 7：熱のデザイン - 建築と熱の制御 8：熱のデザイン - 断熱と蓄熱 9：空気のデザイン - 空気と風の特性 10：空気のデザイン - 水平換気と重力換気 11：空気のデザイン - 湿気と結露 12：水のデザイン - 水の特性と建築の水利用 13：その他の環境デザイン 14：環境を操るための設計プロセス例-1 (住宅) 15：環境を操るための設計プロセス例-2 (図書館、美術館)
実務経験のある教員	建築設計事務所などでパッシブデザインを実践している経験を活かし、環境工学に基づく熱、光、空気のデザイン手法について、その基礎から応用まで、実例とともに幅広く指導を行う。
授業時間外学習	地球環境から生活環境など幅広いテーマについて新聞、書籍等を通じ関心を持つ習慣を身に着けること。また事前に参考テキストなどを通じ、各授業のタイトルにそった環境デザインについて通覧したうえで授業にのぞみ、また授業のあとには復習を行うこと。
評価方法	各回授業のミニレポート 50%、定期試験 50%。出席が 50%に満たない場合は E 評価とする
指導方法	次回の授業日で、レポートから特徴的な見解や誤解についての紹介や解説を行う
使用テキスト	講義資料を毎回の授業で配布する
参考テキスト・URL	建築環境工学 環境のとらえ方とつくり方を学ぶ (学芸出版社) 自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法事典 (彰国社) 建築環境工学用教材 環境編 (日本建築学会)
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	福祉住環境論		授業コード	20031940	
担当教員	金井 謙介				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> わが国の社会の高齢化は急速に進展しており、高齢者のみ世帯や高齢者独居世帯の数が増加するなど家族構造も変化している。「住まいは生活の器」と言われるように住居は我々が生きていく上で必要不可欠なものであり、高齢になつたり障害があつても、快適な暮らしが送れるように住環境をデザインすることがとても重要となる。そこで本講義では、高齢化が急速に進展している我が国において、これからの居住環境の設計・デザインに必要な医療、福祉、工学に関する幅広い知識や技術を身につけることを目的としている。</p> <p><到達目標> ・高齢者や障害のある人を含む人の多様性について理解し、配慮できるようになる ・デザインが人の暮らしに与える影響について説明できるようになる ・具体的な福祉住環境整備の手法について説明することができるようになる ・福祉住環境の視点から設計やデザインができるようになる ・高齢者や障害のある人の生活ニーズについて説明できるようになる ・福祉用具や住設機器のデザインに必要な機能やニーズを説明できるようになる ・「福祉住環境コーディネーター2級」の検定試験合格を目指すことも可能である</p>
授業計画の概要	<p>本講義では、これからの住環境整備に必要な高齢者や障害のある人の生活や心身の特性、医療・保健・福祉・建築などの幅広い知識を学習する。特に福祉住環境整備の対象者（クライアント）となる高齢者・障害のある人の心身特性の理解や福祉制度の理解は福祉住環境整備では必要不可欠であるので、時間を割いてわかりやすく解説する。また、福祉住環境整備に関する整備手法や福祉用具に関する解説も、スライドで写真等の実例を示しながら行う。</p> <p>福祉住環境整備はこれまで学んできた建築やデザインの知識や技術を、具体的に適用することが求められる分野である。知識や技術はそれをどのように活用するかによって人や社会に良い影響も悪い影響も与える。また技術によって障害をなくすこともできる。設計者・デザイナーとしての倫理やその役割についても本講義を通じて考えてもらいたい。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：福祉住環境とは 2：住まいの安全・安心（家庭内事故と住環境） 3：福祉住環境整備の共通基本技術 4：福祉の考え方と福祉制度・サービス 5：高齢者・障害者の特性の理解 6：高齢者に多い疾患の特性と住環境 7：肢体不自由の種類別特性と住環境 8：感覚障害および行動・認知障害の種類別特性と住環境 9：福祉住環境整備に関連する法規・法制度 10：建築・住宅の基礎知識と住生活 11：福祉住環境整備の基礎知識とプロセス 12：空間別福祉住環境整備の方法1 13：空間別福祉住環境整備の方法2 14：福祉用具に関する知識1 15：福祉用具に関する知識2
実務経験のある教員	本講義はリハビリテーションセンター等で福祉住環境整備や福祉用具の相談・開発等の臨床工学サービスに従事した教員が担当し、実際の事例や住環境整備の写真等を示しながら理解促進に努める。
授業時間外学習	<p>授業前には当該授業部分について、身の回りの住宅や環境、道具を観察し、ニュースなどに目を通しておくこと（60分）。</p> <p>授業後には配布した資料を熟読し、理解を深めること（60分）。また、学習した部分について再度身の回りの住宅や環境、道具を観察し、授業前との自分の認識の比較や学習内容について具体的に理解を深めること（60分）。参考テキストを事前に読んでおくことが望ましい。</p>
評価方法	<p>成績は定期試験100%で評価する。</p> <p>ただし、出席回数が10回（授業回数の2/3）に満たない場合は単位が取得できない（正当な理由がある場合は考慮する）。</p>
指導方法	毎時間コメントシートを記入してもらい、その中に書かれた疑問や質問、誤解などについて次回授業内で解説することで誤解の解消や補足等を行い、本講義の学修の定着を図る。

使用テキスト	レジメを配布する。
参考テキスト・URL	『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』東京商工会議所編 『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン』野村歓編、彰国社 『OT・PT・ケアマネにおくる建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本』岡村英樹、三輪書店 『福祉住環境コーディネーター2・3級ポイントレッスン』相良二郎監修、新星出版社 『初めて学ぶ福祉住環境第三版』長澤泰監修、水村容子他著、市ヶ谷出版社 『よくわかる障害学』小川喜道・杉野昭博編著、ミネルヴァ書房 『テクニカルエイド 生活の視点で役立つ選び方・使い方』作業療法ジャーナル編集委員会著、三輪書店 『福祉用具・住環境整備の作業療法』玉垣努・渡邊慎一著、中央法規
各自準備物	配布資料（レジメ）を綴じるファイル・バインダー等を持参することが望ましい
実習費	
その他	出席確認は毎回行い、出席状況を重視する。 20分以上の遅刻は特別な事情がない限り欠席として扱う。 出席の把握方法は基本的には名簿読み上げ（始業時）にて行うが、コメントシートの提出状況など状況に応じて他の方法で確認することもある。

科目名称	都市空間のデザイン			授業コード	20012201
担当教員	川北 健雄				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル（連絡、資料配布、課題提出等）、Forms（課題提出等）
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 都市空間を解説し、具体的なデザインに結びつけるための基礎的な思考力を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市環境の構成要素と、人間による認識のしくみを説明できる。 ・いくつかの都市空間の構成手法を理解し、デザインに応用できる。 ・都市の解説に必要な考え方を身につけ、調査分析できるようになる。
授業計画の概要	都市空間のデザインに関わるいくつかの基礎的な概念について講義する。第一部では都市環境の認識に関する諸概念について、第二部では都市デザインの方法について、そして第三部では世界の主要都市を対象としてその構造と形成の要因について考える。冬休み頃に簡単なフィールドワークを課し、その成果を都市探検報告会で紹介する。
授業計画	<p>第一部 都市環境の認識に関する諸概念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：人間と都市 2：モノの世界とコトの世界 3：環境の認知構造 4：都市のイメージ 5：都市の複雑性 6：都市は「ツリー」ではない <p>第二部 都市デザインの方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 7：都市空間における「図」と「地」 8：外部空間と公私領域 9：都市建築のタイポロジー 10：設計の道具としての類型 11：コラージュ・シティ <p>第三部 都市を読む</p> <ol style="list-style-type: none"> 12：Paris 13：NewYork 14：都市探検報告会（前半グループ） 15：都市探検報告会（後半グループ）
実務経験のある教員	担当教員は、地方自治体における都市計画審議会の委員やさまざまな計画策定支援、および建築事務所での勤務経験を生かして、都市空間の把握とデザインに関わる問題を、多角的な視点から解説する。
授業時間外学習	休日等を利用して多くの場所に出かけ、様々な都市空間を自分自身で体験すること。講義で紹介した事柄をきっかけに、関連図書等も読んで理解を深めてほしい。最後2回の「都市探検報告会」に関しては、授業中に説明する内容にしたがって、各自で事前にフィールドワークを行なってもらう。
評価方法	各授業で出題する小レポートの評価（80%）と都市探検報告会の評価（20%）とを合わせて評価する。
指導方法	小レポートの記述内容に応じて、補足が必要と思われる事柄、あるいは発展的な理解が期待される事柄を、以降の授業の中で説明する。
使用テキスト	随時プリントを配付し、参考テキスト等については授業中に紹介する。
参考テキスト・URL	<p>『実存・空間・建築』ノルバルグ・シュルツ、鹿島出版会</p> <p>『都市のイメージ』ケヴィン・リンチ、岩波書店</p> <p>『街並みの美学』芦原義信、岩波書店</p> <p>『京の町家』島村昇、鹿島出版会</p> <p>『都市を読む＊イタリア』陣内秀信、法政大学出版局</p> <p>『人間の街公共空間のデザイン』ヤン・ゲール、鹿島出版会</p> <p>『HIGHLINE』ジョシア・デイビッド&ロバート・ハモンド、アメリカン・ブック&シネマ</p>
各自準備物	
実習費	
その他	授業内容については、状況に応じて若干変更する場合がある。

科目名称	インテリア空間のデザイン			授業コード	20012171
担当教員	藤山 哲朗				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	インテリアプランナー、建築士、教職				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 建築の作品意図と外部空間とインテリア空間の関係性を理解する。 インテリア独自の建築的エレメントのデザイン方法論を学ぶ、</p> <p><到達目標> 建築史上の作品を通して、近代における室内空間の意義を理解する。 ビルディング・タイプ毎によるインテリア空間の特性や、用途・部位により必要とされるエレメントについて理解する。</p>
授業計画の概要	<p>実際の建築デザインでは、内部空間と外部空間を別に扱う必然性はない。家具配置からランドスケープまで、一貫したデザインコンセプトが求められる。室内空間は最も身近な日常空間であり、より身体スケールに沿ったデザインが重要である。その一方で近年は、既存の建物の躯体を活かして他用途へ転用するコンバージョンという手法も多く見られるようになった。</p> <p>この授業では、インテリア空間を成立させる「個人」という概念の成立から始め、それぞれの時代を先駆けた建築家やデザイナーの作品を通して、インテリア空間のデザイン方法論を学ぶ。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：イントロダクション：個人空間の誕生 2：個室の変遷－反nLDK：家族論の現在 3：モダニズムの建築家・デザイナーによるインテリア 4：ミッド・センチュリー：北欧のインテリア 5：現代建築家のインテリア 6：身体寸法 7：映像から学ぶインテリア 8：内部空間の要素「導線：コルビュジェの建築的プロムナード」 9：内部空間の要素「ライティング」 10：内部空間の要素「設備：ドイツキッチンのイデオロギー」 11：内部空間の要素「開口部：ペトラ・プレーゼの作品考察」 12：インテリアの表現方法：グリッドパースの作図法 13：ケーススタディ「ホテルのゲストルーム」 14：ケーススタディ「コンバージョンによる美術館」 15：インスタレーションアート：美術作品としてのインテリア
実務経験のある教員	建築家である教員が、実作の設計経験もふまえて講義する。
授業時間外学習	空間のスケール感覚を身につけるため、身の回りの様々なデザインについて実測をすること。 関連資料や書籍を積極的に読み、展覧会やショールーム、建物見学に足を運び空間体験を行うこと。
評価方法	各回授業のコメント提出 70%、デザイン課題 30%。
指導方法	レポート課題は返却時にコメント。デザイン課題は発表会で講評。
使用テキスト	適宜、資料コピーを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	建築空間のプランニング			授業コード	20012510
担当教員	前田 茂樹				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士				

授業実施方法	対面授業（8回）、遠隔授業（7回）（予定）
使用するアプリ等	LINEのオープンチャット機能
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	建築計画の基礎的な方法論を習得した上で、現代における人々の活動をベースにした実際の建築計画の背景、類型、及びその変遷を理解し、建築設計に応用できるようになる。
授業計画の概要	活動→空間→建築→都市という関係のなかで基礎的な事例を理解し、その方法論を習得する。建築設計における実務経験のある教員が、実践的な建築設計を前提とした建築計画のプランニングを取り扱う。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1：人間・集団の活動と建築空間のプランニングの関係 2：公園や広場における活動を支えるプレイスメイキング（遠隔） 3：独立住宅における活動と空間の組み立て方 4：住宅・古民家のリノベーション・プランニング（遠隔） 5：多世代が共存する集合住宅のプランニング 6：子育て支援、保育のための空間のプランニング（遠隔） 7：小・中・高校における学びの活動のための空間のプランニング 8：コミュニティ施設と複合施設のプランニング（遠隔） 9：ホスピスや医療施設のための空間のプランニング（レポート提出） 10：図書館・博物館・美術館・宿泊施設が地域に果たす役割の変化（遠隔） 11：図書館・博物館・美術館と複合施設のプランニング 12：地域ブランディングに繋がる施設のプランニング（遠隔） 13：産業遺産・商業ビル・オフィス・高架下のリノベーションにおけるプランニング 14：コワーキング・シェアオフィス・庁舎など多様な働き方を支える空間のプランニング（遠隔） 15：社会実験を通じて長期的変化へとつなげる都市空間のプランニング（レポート提出）
実務経験のある教員	建築設計における実務経験のある教員が、実践的な建築設計を前提とした建築計画を取り扱う。
授業時間外学習	授業で扱う内容を意識しながら、実際の建築物における空間体験を積極的に行うことが望ましい。
評価方法	2回のレポートによる。評価の割合はそれぞれ2分の1。※全講義回数数の半分以上の出席が認められない場合は、単位取得はできない。
指導方法	講義の理解を深めるため、建築空間のプランニングの小課題演習を行う場合もある。
使用テキスト	『テキスト建築計画』（川崎寧史、山田あすか編著、学芸出版社）
参考テキスト・URL	『プレ・デザインの思想』（小野田泰明著、鹿島出版会） 『プレイスメイキング アクティビティファーストの都市デザイン』（園田聡著、学芸出版社）
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	構造デザインの実践手法		授業コード	10018152	
担当教員	萬田 隆	島田 陽、畑 友洋、安部 秀司			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 様々な設計の実例を見ることで、建築設計における構造デザインの役割や手法、構造力学がどのように建築設計に行かせていくかを習得する。</p> <p><到達目標> ・ 建築構造デザインの概念について説明することができる。 ・ 木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建築について、その構造システムの特性を説明できる。 ・ 建築家と構造デザイナーのパートナーシップに関する実例を述べることができる。</p>
授業計画の概要	これまで学習してきた力学の知識をベースに実務的な構造設計および構造デザインについての知識を習得する。実例を通してどのような考え方で建築の構造が決定するのか、構造設計が建築全体のデザインにどのような影響を及ぼすか等を学習する。
授業計画	1：建築設計における構造デザインの役割 2：構造デザインの基本的思考方法 3：木造の設計手法 4：木造における構法・材料の適用 5：木造の構造設計手法 6：木造の構造デザイン 7：鉄骨造の設計手法 8：鉄骨造における構法・材料の適用 9：鉄骨造の構造設計手法 10：鉄骨造の構造デザイン 11：鉄筋コンクリート造の設計手法 12：鉄筋コンクリート造における構法・材料の適用 13：鉄筋コンクリート造の構造設計手法 14：鉄筋コンクリート造の構造デザイン 15：特殊な材料を用いた構造デザイン
実務経験のある教員	現役で建築設計を行っている教員が、実際の建築の設計例を示しながら講義を行うことで、講義内容の理解度を向上させる。
授業時間外学習	構造力学の授業および「構造のデザイン」が履修済みであることを前提で授業を進める。
評価方法	授業中に提示するレポートにより評価する。
指導方法	KDU ポータル・クラスプロファイルにより、授業の質問を受けつけ、返答を行う。
使用テキスト	講義に即し資料を配布
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	「構造・材料ワークショップ」の同時履修を前提とした時間割で授業を行う。

科目名称	構造・材料ワークショップ			授業コード	10012352
担当教員	萬田 隆				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 建築の構造材料の特性を座学と実験によって学ぶことにより、建築の設計において適材適所の材料の使用方法について理解する。</p> <p><到達目標> ・木、鉄、コンクリートの建築材料についてその特性を説明することができる。 ・コンクリートの配合方法や力学試験の方法を説明することができる。</p>
授業計画の概要	建築材料について、力学実験を行いながらその特性等を学習する。また設計者が材料をどのように捉え、設計に組み込んでいくのかを実例を通して学習する。
授業計画	1：建築設計における構造・材料の考え方についての講義 1 2：建築設計における構造・材料の考え方についての講義 2 3：建築材料の強度試験に関する講義 4：コンクリート供試体の制作 5：コンクリートの材料特性に関する講義 1 6：コンクリートの材料特性に関する講義 2 7：コンクリートの圧縮試験 1 8：コンクリートの圧縮試験 2 9：コンクリート梁の曲げ試験 1 10：コンクリート梁の曲げ試験 2 11：鋼材の材料特性に関する講義 1 12：鋼材の材料特性に関する講義 1 13：鉄筋引張試験 1 14：鉄筋引張試験 2 15：まとめ
実務経験のある教員	現役で建築構造設計を行っている教員が、実際の建築の設計例を示しながら講義を行うことで、講義内容の理解度を向上させる。
授業時間外学習	「建築構造入門」および「力の流れと安全」が履修済みであることを前提に授業を進める。
評価方法	学期末に行うレポート試験で評価する。
指導方法	KDU ポータル・クラスプロファイルにより、授業の質問を受け付け、返答を行う。
使用テキスト	やさしい建築一般構造 今村仁美・田中美都/学芸出版社 やさしい建築構造力学演習問題集 浅野清昭/学芸出版社
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	「構造デザインの実践手法」の同時履修を前提とした時間割で授業を行う。

科目名称	環境測定ワークショップ			授業コード	20012342
担当教員	荻原 廣高				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	熱、光、空気について体感と理論をつなげて理解する。 これらのプロセスを通じ、建築の環境設計に生かすことができるようになる。
授業計画の概要	熱、光、空気に関する屋内外の現象について、各種の測定機器を用いその物理量測定を行う。またコンピュータシミュレーションを用いた解析演習も加え、自らの感覚とこれらのデータを照らし、具体的に建築設計に生かす方法を考える。
授業計画	1：講義 - 建築環境概論 2：講義 - 空間と熱の特性 3：演習 - 温熱環境の測定 4：演習 - 温熱環境のシミュレーション (解析の理論と手順の修得) 5：演習 - 温熱環境のシミュレーション (3D モデルを使った実践) 6：講義 - 空間と空気や風の特徴 7：演習 - 空気・風環境の測定 8：演習 - 自然通風・換気のシミュレーション (解析の理論と手順の修得) 9：演習 - 自然通風・換気のシミュレーション (3D モデルを使った実践) 10：講義 - 空間と光の特性 11：演習 - 光環境の測定 (太陽の動きと昼光) 12：演習 - 光環境の測定 (照度・輝度) 13：演習 - 自然採光のシミュレーション (解析の理論と手順の修得) 14：演習 - 自然採光のシミュレーション (3D モデルを使った実践) 15：まとめ - 演習成果発表会と講評
実務経験のある教員	建築設計事務所で環境解析を用いた設計に携わっている経験を活かし、身体的な環境測定と数値解析によるシミュレーションをむすびつけた実践的な手法について、その実例とともに幅広く指導を行う。
授業時間外学習	グループ演習中心の授業のため積極的な出席を求める。評価は出席率に加え、課題への取り組み姿勢や演習での提出物によって行う
評価方法	各回授業のレポートで100%評価する、出席が50%に満たない場合はE評価とする
指導方法	各回の授業日で、理論を紹介する講義と、グループワーク、コンピュータシミュレーション演習を組み合わせるで行う。
使用テキスト	講義資料は配布する。
参考テキスト・URL	設計のための建築環境学 みつける・つくるバイオクライマティックデザイン (彰国社) 建築環境工学実験用教材 (日本建築学会)
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	照明デザイン		授業コード	10031411	
担当教員	相澤 孝司				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	照明コンサルタント・照明士				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	Teams
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	照明デザインを実践する知識として、照度・色温度・演色性・輝度などの用語を設計過程で適宜使うことができる。さらにインテリアデザイン、環境・建築デザインなどの空間系のデザインと照明デザインを総合的に設計できるようにする。プロダクトデザイン・クラフトデザインなどのモノ系のデザインでは、素材・構造・仕上げなどに必要な知識をも修得する。
授業計画の概要	本講義では照明デザインに必要な基礎知識として、照明と光・生理・用語・光源について解説する。つづいて、照明器具と照明手法及び照明の歴史を学習する。照明デザインの事例として住宅・施設・環境と空間別に解説し、さらに心理・イベントなど行為と照明との関係にも踏み込んでいく。照明メーカーのデザイン部門で業務していた経験を活かして、照明デザインの基本的な知識と手法等、近年の施工例を解説しながら、具体的に講義する。
授業計画	1：オリエンテーション 2：照明の基礎1 照明と光・生理について 3：照明の基礎2 照明用語の解説 4：照明の基礎3 照明の光源について 5：照明の基礎についての理解度を確認する 6：照明の歴史炎のあかりから電気による照明そしてLEDについて 7：照明器具と照明手法器具と方法の名称と世界の照明器具について 8：住宅照明身近な住宅を照明から解説（自室の照明調査レポート） 9：施設照明公共空間から商業空間まで実際の現場空間を紹介 10：環境照明神戸の三宮周辺地区の夜景を解説 11：照度計算について光束法の計算方法とは 12：照明空間とイメージについてSD法による照明と心理の関係とは 13：照明と社会照明イベントの紹介と光害について 14：イサム・ノグチを照明アーティストの視点で考えてみる 15：まとめ照明の基礎を理解し、到達目標を確認する
実務経験のある教員	照明器具メーカーのデザイナーとしての実務経験をもとに現場空間の事例を中心に解説する。
授業時間外学習	都市空間・建築空間・インテリアなどの空間で実際に照明を中心によく観察する習慣をつけておくこと。また、図書館で照明に関する書籍、建築・インテリア雑誌などで照明デザインの特徴を発見しておくこと。
評価方法	レポート・課題提出 40%、小テスト・基礎理解度テスト 60%総合的に評価
指導方法	自室の調査では、調査内容を分析して最終の授業で発表する。
使用テキスト	オリジナルテキスト（レジュメ配布）
参考テキスト・URL	
各自準備物	一般的な筆記具
実習費	
その他	教室の定員を超える場合は、プロダクト、環境の学生を優先し、他学科は抽選等の対応をする。

科目名称	ランドスケープのプランニング		授業コード	20012113	
担当教員	担当未定（教員）				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	(1) ランドスケープの基礎（定義・歴史・事例・空時間等）を学ぶ。 (2) 世界および日本の都市計画・緑・ランドスケープの歴史の変遷史・系譜・考え方・特徴等を学ぶ。 (3) グリーンインフラストラクチャー・水と緑のネットワークの機能・構造・特徴等を学ぶ。 (4) スケール別のプランニング技法を用いた都市の観察・調査ができるようになる。
授業計画の概要	ランドスケープ（Landscape）は、日常生活において風景や景色を構成する諸要素として、ある土地における自然・環境・地域資源・歴史などの地域自然環境要素が構築する政治的、経済的、社会的シンボルや空間である。アーバン・ランドスケープ・プランニングのスケール別技法について理解する。はじめに、「ランドスケープの概要・ランドスケープデザイン基礎調査」の観点から理論と実例を提示する。次には、「プランニングのスケールと技法」5つのスケールに応じた計画技法を提示する。最後は、受講者によるランドスケープデザインの展開・演習提出・発表・講評を行う。
授業計画	①ランドスケープの概要（定義・歴史・世界の事例紹介など） ②ランドスケープデザインの範囲と手順 ③ランドスケープデザインを取り巻く様々な環境の把握 ④⑤ランドスケープデザイン基礎調査-I・II、調査演習 ⑥ランドスケープデザインプランニング手法 ⑦⑧敷地・街区スケールのランドスケープ・プランニング-I・II（住宅・病院・屋上緑化等） ⑨⑩街区・地区スケールのランドスケープ・プランニング-I・II（商業施設・市街地等） ⑪⑫都市・広域スケールのランドスケープ・プランニング-I・II（広場・公共施設等） ⑬植栽計画・デザイン演習（デザインウィズネイチャー・エコロジカルプランニング等） ⑭⑮ランドスケープデザインの展開・演習提出・発表・講評-I・II
実務経験のある教員	自治体などに協力して都市公園や公共施設の整備方針・空間設計に関わった経験を活かし、実践的な内容を踏まえた指導を行う。
授業時間外学習	受講者自身の経験や、身近な都市空間の訪問・観察を通じて、本授業への理解を深めていく事を期待する。
評価方法	レポート 70%・発表プレゼンテーション 30%
指導方法	レポート課題の一部は授業時間内で紹介し、相互レビューを実施する。教員と受講生の相互による質疑応答を実施する。
使用テキスト	適宜、資料を配布する。
参考テキスト・URL	緑のランドスケープデザイン（オーム出版）、人と生態系のダイナミクス 3 都市生態系の歴史と未来（朝倉書店）、タクティカル・アーバニズム（学芸出版社）、ソトノバ（ https://sotonoba.place/ ）、ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
各自準備物	
実習費	なし
その他	日常的なまちあるきや自然観察、ランドスケープ・まちづくりに関する書籍やニュースなど、身の回りの資源を最大限に活用して知識を主体的に習得することを期待する。

科目名称	リノベーションの理論と実践		授業コード	10012360	
担当教員	川北 健雄	山之内 誠			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、建築士				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル（連絡・資料配布・課題提出）
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的>今日的な課題である既存建築ストックを活用することについてのさまざまな背景、ならびに具体的なリノベーションを行なうために必要な論理と設計手法を理解する。</p> <p><到達目標>リノベーションの実践に必要な知識を修得し、リノベーションのデザインを提案できる力を身につける。</p>
授業計画の概要	建築からまちや地域までのリノベーションについて、その考え方の基本的枠組みから企画や設計の具体的方法までを、多くの事例を通して具体的・実践的に説き起こす。
授業計画	1：リノベーションという論理（山之内） 2：リノベーションの企画と設計（山之内） 3：住宅のリノベーション（川北） 4：団地のリノベーション（川北） 5：長屋・町家のリノベーション（川北） 6：古民家のリノベーション1／文化的価値への着眼とその継承（山之内） 7：古民家のリノベーション2／プロジェクトの実践例（山之内） 8：学校のリノベーション（山之内） 9：産業遺跡・オフィスビル・商業施設のリノベーション（山之内） 10：エリアのリノベーション1／都心と密集市街地（川北） 11：エリアのリノベーション2／郊外と中山間地域（川北） 12：歴史を築くリノベーション（事例探索課題説明1）（山之内） 13：未来を拓くリノベーション（事例探索課題説明2）（川北） 14：リノベーションのための調査／リノベーションの計画と設計／現場と運営（川北）：[13章・14章・15章] 15：事例探索成果発表会（川北・山之内）
実務経験のある教員	担当する教員のうち、川北は建築設計事務所での実務経験および地方自治体におけるさまざまな計画策定支援の経験を生かし、リノベーションについての考え方と設計手法を具体的かつ実践的に講義する。山之内は、文化財修理工事現場における修理技術者および地方文化財行政における建築の専門委員としての実務経験を生かし、リノベーションにおける文化的価値の継承等について講義する。
授業時間外学習	毎回の授業時に指示する事柄や小レポートに取り組んだうえで、次回の授業に臨むこと。 また、世界のさまざまなリノベーション事例について、日頃から関心を持って見聞を広げておくこと。
評価方法	途中で出題する4回の小レポートの評価（80%）と調査課題の発表内容の評価（20%）を合わせて評価する。
指導方法	提出されたレポートを見て理解が不十分な箇所や、追加説明の必要な事柄があった場合には、次回の授業で補足説明する。
使用テキスト	『リノベーションの教科書』（小池・宮部・花田・川北・山之内・森、学芸出版社）
参考テキスト・URL	授業の中で適宜紹介する。
各自準備物	随時指示する。
実習費	
その他	

科目名称	施工の技術		授業コード	20012151	
担当教員	竹内 友隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	混合授業（対面を基本とするが、一部オンデマンドを併用する）
使用するアプリ等	KDU ポータル及び Teams
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	建築施工における総合的な基礎知識について理解する。 施工方法を考慮した建築設計を進めることができるようになる。
授業計画の概要	建築士やインテリアプランナーをはじめ、将来的に建築に関わるため、必要となる建築生産のしくみと施工の基礎知識を学ぶ。期間中に体験学習を目的とした建設作業所見学を実施することもある。
授業計画	1： 総則 2： 建築生産のしくみ 3： 準備工事と山留め工事 4： 杭工事、土工事 5： 躯体工事-1（鉄筋コンクリート） 6： 躯体工事-2（鉄骨） 7： 外装工事-1（タイル・石） 8： 外装工事-2（組積・カーテンウォール） 9： 内装工事 10・11： 建設作業所見学 12： 設備工事 13： 外構・その他工事 14： 解体工事、建設リサイクルとゼロエミッションへの取り組み 15： 維持・保全、改修工事 振り返り ※建設作業所見学の予定により授業計画変動の可能性があります。
実務経験のある教員	設計事務所にて新築・改修工事を受け持つコスト設計・監理部門に所属し、放送局（朝日放送新社屋）や市街地再開発事業（宮崎市）、離島（東京都小笠原村母島）、公共複合施設（東京都港区）など多岐にわたる工事監理経験をもち、建築施工に必要な知識や技術について、実際の業務に近い内容で講義します。
授業時間外学習	建設作業所は身近なところにもあります。施工プロセスに疑問を持つこと、考えてみることをきっかけに講義の内容の理解を深めてください。
評価方法	小テストや建設作業見学レポート等と期末試験の結果、及び講義での参加姿勢を総合的に評価する。
指導方法	
使用テキスト	「施工がわかるイラスト建築生産入門」 （一般社団法人日本建設業連合会編、出版：彰国社） { http://www.shokokusha.co.jp/?p=9195 }
参考テキスト・URL	
各自準備物	建設作業所見学の際には、動きやすく安全な服装（長ズボン・スニーカーなど）とする。
実習費	
その他	建設作業所見学は、工事の進捗や天候などの理由により、スケジュール変更の可能性がある。また、遅刻をした場合、入場できないので、特に注意すること。

科目名称	環境制御の技術		授業コード	10012120	
担当教員	荻原 廣高				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	建築の環境設備設計に関する幅広い知識や、高効率で環境負荷の少ない設計手法について理解する。 建築の環境設備設計に生かすことができるようになる
授業計画の概要	現代の都市には多岐に渡る建築用途が存在する。それぞれに要求の異なる機能、快適性、安全性などを確保するためには高度な環境制御（設備システム）が不可欠であるが、同時に地球環境負荷の少ない設計も求められる。実際の設計事例を交え、これらについて習得する。（環境制御設計例の中で、学外見学を実施することがある）
授業計画	1：環境制御技術概論 2：環境制御技術と地球環境保護 3：空気調和設備設計 - 空気調和設備の概要と種類 4：空気調和設備設計 - 冷暖房負荷の計算法 5：空気調和設備設計 - 湿り空気線図と空気調和プロセス 6：空気調和設備設計 - 冷温熱源設備と空気調和機 7：給排水衛生設備設計 - 給排水衛生設備の概要 8：給排水衛生設備設計 - 給排水設備の計算法 9：給排水衛生設備設計 - 衛生器具と水の再利用技術 10：電気設備設計 - 電気設備の概要 11：電気設備設計 - 照明設計の概要 12：防災設備設計 13：環境制御設計例 - 1（事務所） 14：環境制御設計例 - 2（図書館） 15：環境制御設計例 - 3（美術館）
実務経験のある教員	建築設計事務所幅広く環境設備設計を実践している経験を活かし、環境制御技術の基礎から応用まで、実例とともに幅広く指導を行う。
授業時間外学習	地球環境から生活環境など幅広いテーマについて新聞、書籍等を通じ関心を持つ習慣を身に着けること。また事前に参考テキストなどを通じ、各授業のタイトルにそった建築設備や環境制御技術について通覧したうえで授業にのぞみ、また授業のあとには復習を行うこと。
評価方法	各回授業のミニレポート 50%、定期試験 50%。出席が 50%に満たない場合は E 評価とする。
指導方法	次回の授業日で、レポートから特徴的な見解や誤解についての紹介や解説を行う
使用テキスト	講義資料を毎回の授業で配布する
参考テキスト・URL	基礎教材建築設備（井上書院） 建築環境工学用教材 設備編（日本建築学会）
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	建築と法規	授業コード	20018140		
担当教員	三上 晴久				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士、教職				

授業実施方法	対面で行いますが、社会状況に対応してオンデマンド型の遠隔を導入することがあります。詳細は、授業開始までにポータルをとおして、掲示とメール連絡します。
使用するアプリ等	KDU ポータルのクラスプロフィール内に動画の URL を掲示登録するので、それを視聴すること。あわせて、授業資料を、ポータルサイトに事前にアップする。
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 実務設計では欠かすことのできない建築法規の概要を理解し、とくにたいせつな項目については、具体的な計算ができるようになる。</p> <p><到達目標> 用途地域について理解できる。 2項道路と敷地形状に関する留意事項を学ぶことができる。 建築面積・延べ面積の計算において留意すべき点を学ぶことができる。 採光面積と採光斜線を理解することができる。 高さ制限を理解することができる。</p>
授業計画の概要	建築基準法および建築基準法施行令を中心として建築法規を講義する。 用途地域・居室とするための条件・道路幅員と法規制・建築面積と建ぺい率・延べ面積と容積率・高さ制限に関して、とくに詳しく解説する。
授業計画	1:オリエンテーション 2:建築基準法、用語の定義、面積と高さ 3:建築物の設計と手続き、大規模建築物等、特殊建築物の耐火建築物等の規定、防火区画 4:居室の採光、居室の換気、居室の天井高さ、共同住宅の界壁等 5:階段、避難施設、道路と敷地、用途制限（用途地域） 6:容積率、建ぺい率 7:高さ制限、日影規制、防火・準防火地域 8:復習、要点の整理
実務経験のある教員	40年以上にわたって建築の実務設計に携わってきた教員による授業であり、最新の内容にもとづいている。
授業時間外学習	「建築面積と建ぺい率、延床面積と容積率」は、環境デザイン実習においてすでに学んでいるので、十分に復習したうえで受講してください。
評価方法	最終試験を行い、その結果に基づいて評価する。
指導方法	最終試験答案是、採点して返却する。
使用テキスト	『超入門 建築法規』（永井孝保・野口則子著、市ヶ谷出版）から抜粋した資料
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	まちづくりのしくみ			授業コード	20018170
担当教員	小浦 久子				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 開発整備の手法やプログラムの実践を学ぶことにより、都市計画・地域整備の実際について理解する。</p> <p><到達目標> 地域づくりについて実践的に説明する力をつけ、建築と都市をつなぐ視点を身につける。 地域整備における公共の役割および行政制度を理解できるようになる</p>
授業計画の概要	地域整備における計画・制度・しくみ・事業について具体的事例にもとづき解説する。神戸市と連携し、計画・整備事業の成果と課題などについて、都市計画と地域整備の実践事例を通じて、神戸市の担当者から学ぶ。
授業計画	1：概論 2：まちづくりのしくみ 3：マスタープランと都市計画のしくみ 4：都市づくりの基本と公共空間 5：住環境整備 6：住まいからのまちづくり 7：まちの景観・みどりの景観 8：リノベーションとスマート都市づくり
実務経験のある教員	都市計画、住環境整備、景観などの分野の神戸市担当者が実際の事業や計画を説明することから実践的に学ぶ。
授業時間外学習	神戸市の具体的なプロジェクトを事例として、計画と整備のしくみについて学ぶので、できるだけ学習した内容について、実際に現地を見に行き、学んだことを確認することを心がけること。市のホームページを利用して、関連する開発やしくみを見ておくこと。
評価方法	各回の神戸市の事例解説について実施する授業内レポートの総合点で評価する
指導方法	各回のレポートと合わせて質問を受け付け、返答する。
使用テキスト	適宜、資料を配布する。
参考テキスト・URL	『都市計画とまちづくりがわかる本第二版』彰国社 2017 『初めて学ぶ都市計画第二版』市ヶ谷出版社 2008
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	都市空間のプランニング			授業コード	10012163
担当教員	小浦 久子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面 (ただし、状況に応じてオンデマンドの回が入ることもある)
使用するアプリ等	(オンデマンドの場合は、KDU ポータル及び Stream)
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> アーバンデザインにおける基礎となる地域空間の成り立ちとその地域特性を理解し、地域性にもとづくプランニングの基礎を習得する。</p> <p><到達目標> 地域の見方を学ぶことにより、リサーチを通じて地域空間を理解し説明できるようになる。 プランニングにおける公共性や都市計画の考え方と都市空間デザインを関連づけることができるようになる。</p>
授業計画の概要	地域空間の成り立ちを歴史・生業・生活からとらえる地域の見方について解説し、地域の特性や課題のとりえ方を学ぶ。これにもとづきフィールドワークにより地域を説明することを試行してみる。空間デザインの観点から都市計画の基礎について解説し、地域空間を構想し変化をマネジメントするための計画の考え方と手法を習得する。
授業計画	1：都市の始まりと地域空間の見方 2：地域空間の見方：歴史 3：地域空間の見方：自然基盤 4：地域空間の見方：すまい 5：地域空間の見方：生業・アクティビティ 6：都市を読み解く：事例1 7：都市を読み解く：事例2 8：都市空間の構成：道・街区・建築物 9：都市空間の構成：都市空間のスケール 10：プランニング基礎Ⅰ：都市のかたちを計画する 11：プランニング基礎Ⅱ：都市の基盤施設 12：プランニング基礎Ⅲ：土地利用と景観 13：プランニング基礎Ⅳ：まちの再生：事業から使いこなしのデザインへ 14：プランニング基礎Ⅴ：パブリックスペースと都市空間のマネジメント 15：プランニング基礎Ⅵ：居住環境の安全と持続可能性
実務経験のある教員	プランニングの実務経験にもとづき、計画の実践で求められる制度と空間デザインをつなぐ考え方やリサーチによる地域の見方を解説する。
授業時間外学習	できるだけ様々なまちを歩いて、実際の都市空間を記録することを心がける
評価方法	課題レポート (1回) 3回のチェックQ&A
指導方法	チェックQ&Aについては授業時間内で解説を行う できるだけ具体的な事例を用いて考え方やしくみを解説することにより、実践的な理解につながるようにする
使用テキスト	適宜、資料をコピー配布する
参考テキスト・URL	『まちの見方・調べ方—地域づくりのための調査法入門』朝倉書店 2010 『未来の景を育てる挑戦-地域づくりと文化的景観の保全』技報堂出版 2011 『都市計画とまちづくりのわかる本第二版』彰国社 2017 『県都物語』有斐閣 2018 『都市計画学：変化に対応するプランニング』学芸出版社 2018
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	環境デザインプロジェクトB		授業コード	20012442	
担当教員	萬田 隆	山之内 誠、長濱 伸貴、小浦 久子、畑 友洋、荻原 廣高、山崎 高拓、三上 晴久、川北 健雄、藤山 哲朗、花田 佳明			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	4	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面 課題によっては、遠隔を組み合わせることもある
使用するアプリ等	課題ごとに担当教員が指示する。
履修制限等	E生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<授業の目的> 各担当教員の専門性を踏まえた、具体的なプロジェクトを通して、より高度なデザイン能力を身につける。 <到達目標> プロジェクトを通じて課題や企画・計画の提案を分析的に説明できるようになる。 社会的実践への構想力を広げることができるようになる。
授業計画の概要	環境デザイン学科4年生を対象に、各自の専門性を高めることを目的とする。環境デザインプロジェクトとして、リノベーション、建築、ランドスケープ、まちづくりなどの分野の特性を考慮した複数の演習課題を提供する。いずれも、フィールドワークや共同作業におけるディスカッションによって実践的に課題を実施し、プロジェクト成果のプレゼンテーションを行う。 提供される課題の一つを選択して必修科目の「環境デザインプロジェクトA」とするが、意欲的な学生に対しては複数課題の履修を認めている。その場合、2つの課題に取り組む者は「環境デザインプロジェクトA」に加え「環境デザインプロジェクトB」を、3つの課題に取り組む者はさらに「環境デザインプロジェクトC」を履修登録する必要がある。科目名と課題は対応していないので、いずれか1つの課題に合格した者に「環境デザインプロジェクトA」の単位を与え、2課題合格者には「環境デザインプロジェクトA」と「B」、3課題合格者には「環境デザインプロジェクトA」と「B」と「C」に、単位を与える。 環境デザインにおける専門性は有機的に関連し、総合的な判断や構想力が必要とされることから、各課題を通じて、研究室の専門分野を超えて視野を広げることを意図している。
授業計画	年度初めの4年生ガイダンスの際に、演習課題ごとの内容・日程を公表する。各演習課題では実際に進行中のプロジェクトや公開コンペへの参加、ワークショップ等、特色のある各種演習課題に参加する機会が与えられる。
実務経験のある教員	環境デザインに関わる専門性を求めるプロジェクト型の課題であることから、建築・都市・ランドスケープ分野におけるデザインやプランニングの実務経験にもとづき、実践的に指導する。
授業時間外学習	各自「卒業研究」との関連性を考えて、演習内容を「卒業研究」に活かせるように、主体的に取り組むこと。
評価方法	演習課題への取り組み状況および最終提出作品の成果を評価する。
指導方法	演習課題ごとに、講評会等を適宜実施し、成果に対する講評を行う。
使用テキスト	演習課題ごとに適宜指示する。
参考テキスト・URL	演習課題ごとに適宜指示する。
各自準備物	演習課題ごとに適宜指示する。
実習費	演習課題ごとに適宜指示する。ただし、学外演習・作品制作にかかる交通費・材料費については各自負担を原則とする。
その他	環境デザイン学科の卒業研究ゼミに配属されたものだけが履修できる。なお、演習の性格上、各演習課題の定員を設けるため、第1希望者が定員を超えたプロジェクトには登録できない場合もある。

科目名称	環境デザインプロジェクトC		授業コード	20018121	
担当教員	萬田 隆	山之内 誠、長野 真紀、長濱 伸貴、小浦 久子、畑 友洋、荻原 廣高、山崎 高拓、三上 晴久、川北 健雄、藤山 哲朗			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	4	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面 課題によっては、遠隔を組み合わせることもある
使用するアプリ等	課題ごとに担当教員が指示する。
履修制限等	E生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<授業の目的> 各担当教員の専門性を踏まえた、具体的なプロジェクトを通して、より高度なデザイン能力を身につける。 <到達目標> プロジェクトを通じて課題や企画・計画の提案を分析的に説明できるようになる。 社会的実践への構想力を広げることができるようになる。
授業計画の概要	環境デザイン学科4年生を対象に、各自の専門性を高めることを目的とする。環境デザインプロジェクトとして、リノベーション、建築、ランドスケープ、まちづくりなどの分野の特性を考慮した複数の演習課題を提供する。いずれも、フィールドワークや共同作業におけるディスカッションによって実践的に実施し、プロジェクト成果をプレゼンテーションする。 提供される課題の一つを選択して必修科目の「環境デザインプロジェクト A」とするが、意欲的な学生に対しては複数課題の履修を認めている。その場合、2つの課題に取り組む者は「環境デザインプロジェクト A」に加え「環境デザインプロジェクト B」を、3つの課題に取り組む者はさらに「環境デザインプロジェクト C」を履修登録する必要がある。科目名と課題は対応していないので、いずれか1つの課題に合格した者に「環境デザインプロジェクト A」の単位を与え、2課題合格者には「環境デザインプロジェクト A」と「B」、3課題合格者には「環境デザインプロジェクト A」と「B」と「C」に、単位を与える。 環境デザインにおける専門性は有機的に関連し、総合的な判断や構想力が必要とされることから、各課題を通じて、研究室の専門分野を超えて視野を広げることを意図している。
授業計画	年度初めの4年生ガイダンスの際に、演習課題ごとの内容・日程を公表する。各演習課題では実際に進行中のプロジェクトや公開コンペへの参加、ワークショップ等、特色のある各種演習課題に参加する機会が与えられる。
実務経験のある教員	環境デザインに関わる専門性を求めるプロジェクト型の課題であることから、建築・都市・ランドスケープ分野におけるデザインやプランニングの実務経験にもとづき、実践的に指導する。
授業時間外学習	各自「卒業研究」との関連性を考えて、演習内容を「卒業研究」に活かせるように、主体的に取り組むこと。
評価方法	演習課題への取り組み状況および最終提出作品の成果を評価する。
指導方法	演習課題ごとに、講評会等を適宜実施し、成果に対する講評を行う。
使用テキスト	演習課題ごとに適宜指示する。
参考テキスト・URL	演習課題ごとに適宜指示する。
各自準備物	演習課題ごとに適宜指示する。
実習費	演習課題ごとに適宜指示する。ただし、学外演習・作品制作にかかる交通費・材料費については各自負担を原則とする。
その他	環境デザイン学科の卒業研究ゼミに配属されたものだけが履修できる。なお、演習の性格上、各演習課題の定員を設けるため、第1希望者が定員を超えたプロジェクトには登録できない場合もある。

科目名称	環境デザイン特別講義B		授業コード	20012380	
担当教員	萬田 隆	山之内 誠、長野 真紀、長濱 伸貴、小浦 久子、畑 友洋、荻原 廣高、山崎 高拓、三上 晴久、川北 健雄、藤山 哲朗			
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル、Teams
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> 環境デザインに関わる多様な専門領域における先進的な取り組み事例を知ること、現代社会における環境デザインの課題と可能性を理解する。</p> <p><到達目標> 多様な先進事例から環境デザインに関わる知見を得ることにより、空間デザインの構想力を高めることができる</p>
授業計画の概要	学外から特別講師を招き講義を行う。特別講師は、各界で活躍する第一人者で、半期で計4名を予定している。環境デザイン学科の学生が主な対象であるが、他学科の学生の履修も推奨する。
授業計画	<p>第1回特別講義：リノベーション分野 第2回特別講義：建築分野 第3回特別講義：ランドスケープ分野 第4回特別講義：まちづくり分野</p> <p>※ただし、プログラム調整により講義分野や開催順序などを変更する場合がありますので、学科からの案内を確認すること。</p>
実務経験のある教員	環境デザインに関連する多様な専門分野で先進的な実務実践を行っている特別講師による講義を行う。講義当日は、各分野を代表する講師の方に直接質問ができる機会でもあるので、十分にその機会を活用してほしい。
授業時間外学習	特別講師およびテーマについては事前に学内掲示や環境デザイン学科のウェブサイト等で案内するので、図書館やインターネット等を活用し、特別講師の方の著書や設計作品等についての予備知識を得て、当日の講義に臨むこと。
評価方法	レポート (計4回のレポートの合計点で評価する)
指導方法	各回の講義時に質疑応答の機会を設ける。
使用テキスト	各回の特別講師の方のウェブサイトや作品、著作等を、各自で検索して調べておくこと。
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	4回の特別講義のうちの1回は、「アート&デザイン特別講義」として、水曜日の16:20以降に開催する可能性がある。